

豊水っ子だより

笑顔! いい声! いい心! いっぱいの学校

第7号

令和元年10月25日
豊水小学校

交通・生活安全について

今年は、ゆっくりと秋が深まっているように感じます。それに合わせ、日没時刻もだんだんと早くなっています。この時期の日没は、1日1分短くなると言われます。ちなみに、10月21日の日没時刻は、17時39分です。

今年は、県内で高校生が関係する交通事故が2件発生しています。警察の統計では、今年の4月から8月の小学生及び中学生の交通事故死傷者数は、小学生70人(昨年比-17人)、中学生38人(昨年比-23人)です。小学生の交通事故は、「帰宅後」「歩行中の飛び出し」、中学生の交通事故は「下校時の自転車乗用中」「安全の不確認」が特徴です。また、今年の5月に神奈川県川崎市では、子供たちの集まるスクールバスの停留所で、児童と保護者が犠牲となる事件が発生しました。

玉名署管内では、5つの高校でつくるボランティア団体「ボウハンティア」の生徒が中心となって、JR玉名駅駐輪場周辺にのぼり旗を設置しています。本校でも、毎朝交通指導をボランティアで行っていただいておりますし、PTAや警察、交通安全協会等の協力を得て、のぼり旗の張り替えや増設、防犯見まわり等を行っています。秋の全国交通安全運動期間中は、各種団体の皆様方にも朝の交通指導で大変お世話になりました。子供達だけでなく全ての人が安全・安心して暮らせる町づくりは、「見守り・声かけ・情報の共有」が大切だと思います。これからも、事件・事故「0」をめざして、安全教育を行っていきますので、ご協力をよろしくお願いいたします。



正門ののぼり旗



交通指導ボランティア

※学校には、防犯ベスト・帽子・腕章があります。散歩などの際に着用いただけますと、犯罪の抑止力ともなります。ご連絡お待ちしております。TEL: 76-0202

県人権教育研究大会に参加しました

去る10月19日・20日、宇城地区で研究大会が開催されました。この大会は、熊本県人権教育研究協議会の主催で、荒尾・玉名地区人権・同和教育推進協議会も加盟しています。また、熊本県・熊本県教育委員会・熊本県市長会等の86の団体が後援をしている大会です。開会の挨拶では、いじめや虐待、貧困の連鎖等が子供の教育や生活に大きなしかかっており、基本的人権の享有をすべての人のものとしていくためにも、私たち一人一人が、人権を実現していくものの見方と考え方、行動力等を獲得しなければならないこと等が述べられました。

本校でも日頃から、人権が尊重される環境づくり・人間関係づくり・学習活動づくりに取り組んでいます。本校の人権教育の目標は、

- ・自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることができる子供を育てる
- ・差別を見抜き、差別をしない、差別を許さない、差別に負けない子供を育てる

です。7月の授業参観では、全クラスで人権学習の授業を行いました。今後も、保護者との連携・理解を深め、人権尊重の輪を広げて参ります。

ラグビーワールドカップを見て思うこと・・・

昨今、テレビやネットの話題となっているのがラグビーワールドカップ。日本チームは残念ながらベスト8で敗退してしまいましたが、予選リーグの4試合の大進撃に日本中が熱狂し、たくさんの感動を与えてくれました。体と体がぶつかり合い危険を省みない勇気あるプレーにラグビーというスポーツの素晴らしさを感じています。ラグビーを知らなかった人たちもいわゆる「にわかファン」として急増し、ラグビーの魅力に夢中になっているようですが、その理由はただ単に日本チームが勝ち続けた結果だけではないと感じます。乱闘とも思えるような激しい試合でも、試合終了のホイッスルが鳴ると、勝っても決して驕らず、また負けても落胆せず、勝敗関係なくお互いに相手を讃え合う、ラグビーにはいわゆる「ノーサイドの精神」という言葉があります。またラグビーには「One For All, All For One」という言葉もあります。「一人はみんなのために、みんなは一人のために」・・・とてもすばらしいフレーズです。一人一人を大切に作る心、一人一人が欠かせない存在であること、そんな深い意味がたくさんこめられています。そんな意味でも、ラグビーというスポーツそのものが「人権」そのものと言っても過言ではないかと思えます。また台風19号の通過、被害により予定されていた試合が中止となり、その時点で予選リーグ敗退が決まったカナダチーム。本来ならば試合ができないままに敗退した悔しさ、無念さ、そして憤り・怒りは半端ではないと思います。しかし、被災地で泥運びなどのボランティア活動を必死に取り組んでいる姿には感動の涙でした。試合の勝利以上にカナダチームの選手の人間的な素晴らしさを感じています。今回のラグビーワールドカップで感じたこと、思いをぜひ豊水小の子どもたちにも伝えていければと思います。一人一人を大切に作る心、一人一人が欠かせない存在であること、「一人は53人のために、53人は一人のために」・・・そんな気持ちを持った子どもたちをぜひ育み、「豊水小の自慢は豊水っ子」と心の面でも宣言できる豊水小学校を目指します!

